

患者さまと井上眼科病院をつなぐ「眼」の情報ペーパー

INOUYE EYE Note

西葛西・井上眼科病院の 新体制が始動

田中院長が案内する「眼科の専門外来」『網膜硝子体疾患』【西葛西】
先生の、見つめてきたもの〈vol.02〉 野崎院長 / いいもの見つけた！

140TH
SINCE 1881
INOUYE
EYE HOSPITAL GROUP
140th ANNIVERSARY

ご自由にお持ちください。



井上眼科だより

2021
SUMMER
vol. 117



医療法人社団 済安堂
井上眼科病院グループ
INOUYE EYE HOSPITAL GROUP

公式フェイスブックで最新情報を発信しています。

田中院長が案内する「眼科の専門外来」

「網膜硝子体疾患」編

初めてこの疾患で来院される患者さまに向けて、外来受診から、治療の説明や手術など、一連の流れを解説していきます。西葛西・井上眼科病院では、一般眼科外来と並行して「網膜硝子体診療」に力を入れています。

網膜剥離の可能性があると
言われたので
すが…

西葛西の「網膜硝子体診療」をご案内します。



初診の流れ

1

初めてご来院の際は
持ち物をご確認の上、
受付にお越しく下さい。

ご予約の上、ご来院いただき、1F受付までお越しください。紹介状をお持ちの方はご提示ください。

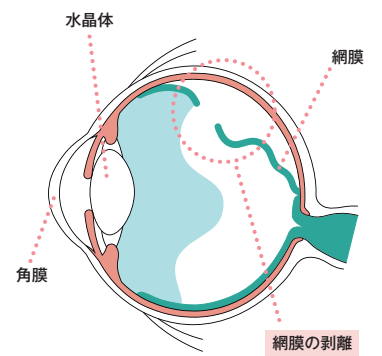


待合室にモニターを設置し、院内表示も大きくするなど、病院全体にユニバーサルデザインを導入。お子さまから高齢の方、見えづらい方にとって利用しやすい施設となっています。



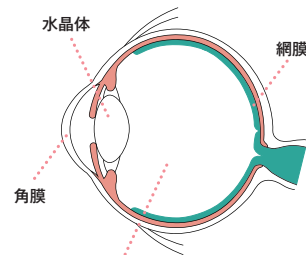
網膜剥離とは？

加齢により硝子体が縮み、網膜からはがれることを「後部硝子体剥離」といいます。硝子体の収縮や変化は、加齢とともに誰にでも起こることで、それ自体は心配ありませんが、網膜と強く癒着しているとはがれる際に網膜が強く引っ張られたり、孔があいてしまうことがあります。これによって、網膜裂孔、網膜剥離を引き起こしたり、視力にとって重要な網膜の中心部分である黄斑部に影響が起ると、黄斑前膜や黄斑円孔の原因となります。



網膜硝子体疾患とは？

「網膜」は、カメラのフィルムのような役割をしています。黒目を通して眼球に入る光を網膜の細胞が感知し、視神経を介して脳に信号を伝えることで物が見えています。眼球の中にある「硝子体」という組織が出血などによって濁ったり、網膜がはがれたりすることで見え方に影響を及ぼします。



硝子体

眼球の中はゼリー状の「硝子体」という組織で満たされて形を保っています。それにより、通常は網膜もびったりと眼底に押し付けられています。

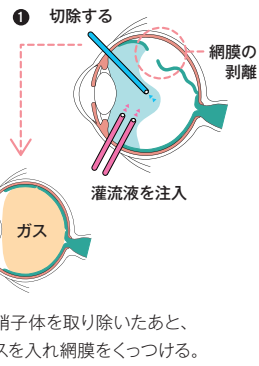
代表的な疾患：網膜剥離、糖尿病網膜症、加齢黄斑変性、網膜静脈閉塞症、黄斑円孔、黄斑上膜など

治療・手術

3

硝子体内注射や手術により、
治療していきます。

眼内の出血や濁り、増殖した組織を硝子体と一緒に除去します。当院では低侵襲の小切開硝子体手術を基本とし、患者さまの早期回復を目指します。



「網膜剥離」の手術

初期は網膜裂孔という網膜に孔があいている状態で、進行すると、この孔の裂け目から液化した硝子体が入り込んで、網膜がはがれ網膜剥離になります。剥離してしまった部分の網膜を元通りにくっつける手術を行います。

①眼圧を保つために、灌流液という房水とよく似た性質の液を流し込みながら、網膜を引っ張っている硝子体を切除する。
②硝子体を取り除いたあと、ガスを入れ網膜をくっつける。

術後

4

入院中の手厚いサポートと
専門医の診察で経過を見守ります。

術後、一週間程度の入院期間中には、下向きの姿勢を保つ体位制限を行うことがあります。その際も、誘導や食事介助の訓練を受けたスタッフが患者さまの入院生活をサポートします。



専門外来

2

網膜硝子体を専門とする
医師が、診療にあたります。

「網膜硝子体疾患」と同時に白内障などの一般的な眼の疾患にも対応していますので安心して受診ください。

田中 宏樹
Hiroki Tanaka
西葛西・井上眼科病院 院長

2007年筑波大学医学専門学群卒。2021年5月より西葛西・井上眼科病院院長就任。

高齢化により、失明原因にもなる加齢黄斑変性も増えています。当院では「黄斑外来」もあります。



藤本 隆志
Takayuki Fujimoto
西葛西・井上眼科病院 副院長

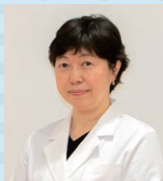
2006年日本大学医学部卒。2020年に西葛西・井上眼科病院の副院長就任。

「網膜硝子体疾患」は緊急性が高いこともあるので、早めに受診しましょう。



西葛西には、「緑内障外来」があります。

緑内障は40歳以上の20人に1人が罹患し、中途失明の原因として最も多い疾患です。治療は長期にわたるため、医師と患者さまとの間に良好なコミュニケーションが必要です。当院では、視野検査や、緑内障の診断に必要な各種検査機器をそろえています。人間ドックや健康診断で緑内障、または緑内障の疑い（視神経乳頭陥凹を含む）と指摘された方はもちろん、すでに緑内障の診断を受けた方のセカンドオピニオンとしてもご利用いただけます。また、日本の眼科医療機関で初となる運転外来の新設などの新しいことに積極的に取り組んでいます。



國松 志保
Shiho Kunimatsu
西葛西・井上眼科病院 副院長

1993年千葉大学医学部卒。2019年に西葛西・井上眼科病院の副院長就任。専門は緑内障。

毎日笑顔で、
患者さまをお迎えしたい。
一人ひとりのお気持ちに
自然に寄り添っていきけるように。



「優しいクリニック」を
体現するように、
患者さまの想いに寄り添い続ける
野崎院長の信念とは ...

野崎 令恵

Norie Nozaki

大宮・井上眼科クリニック 院長

2003年佐賀医科大学(現佐賀大学)卒。岡山大学病院、川崎医科大学附属病院を経て2007年に西葛西・井上眼科病院に入局。その後井上眼科病院に勤務し、2018年に大宮・井上眼科クリニック院長就任。眼科専門医。

患者さまが、安心して相談できる 病院の雰囲気づくりを目指して。

わたしが院長として心がけているのは、いつも笑顔でいることです。これは院内のコミュニケーションを円滑にして、より良い状態で患者さまを診ていくために、とても大事なことです。2016年、大宮・井上眼科クリニックが開院し、医師をはじめ、視能訓練士、看護師、診療助手、受付事務、全スタッフに気持ちよく働いてもらうには？を考えた時、「院長である自分が、いつも笑顔でいることが大切」と思いました。スタッフたちの良い雰囲気は、患者さまにも伝わります。せっかくクリニックに来院されたからには、患者さまの不安を少しでも取り除いて、なんでもご相談いただき、受診してよかったですと感じてほしいですね。

患者さまが望んでいることは“何か”に、 しっかりと耳を傾けたい。

一般的な白内障は手術をすれば治る病気ですが、手術を不安に感じる患者さまの中には、「白内障の自覚症状があるけれど、きっと手術を勧められるだろうから、眼科の受診を躊躇してしまう」という方がいらっしゃいます。治療することが先決なのに、受診を躊躇させてしまうのは、とても残念なことです。まずは、困りごとやご要望を、遠慮なく話していただける雰囲気をつくりたいと考えています。それぞれの症状を診て複数の選択肢をご提案し、患者さまと相談しながら最善の治療を一緒に決めていけるように努めています。当院は、新幹線の駅であるJR大宮駅近くの好立地でもあり、群馬、新潟、長野などの遠方から通われる方々もいらっしゃいます。より専門的な治療が必要な場合や入院が必要な症例には、井上眼科病院グループ内で連携して治療していますが、わたしはグループ内の3つの病院に勤務した経験があるので、

連携病院で受ける手術でも、患者さまが安心して治療に専念できるよう、丁寧にご説明をしていきます。

困難を乗り越えながら、 これからも、技術を磨き続けたい。

今は、院長を務めています。これまでのキャリアは決して順調なものではありませんでした。3児の母親として育児と医師の仕事を両立するのは大変ですが、楽しみながら仕事にも前向きに取り組んでいます。以前、小児眼科を担当していた時は一般の診療とは違うところも多く、たくさんの気づきを得ることができました。今までにさまざまな苦境がありましたが、その時の経験は、今もとても役立っています。苦難を乗り越えて、そこから学びを得ると、技術が向上してステップアップできていると実感します。これからも、さまざまな知識を得て技術を磨き続けながら、多くの患者さまに寄り添える診療をしていきたいです。



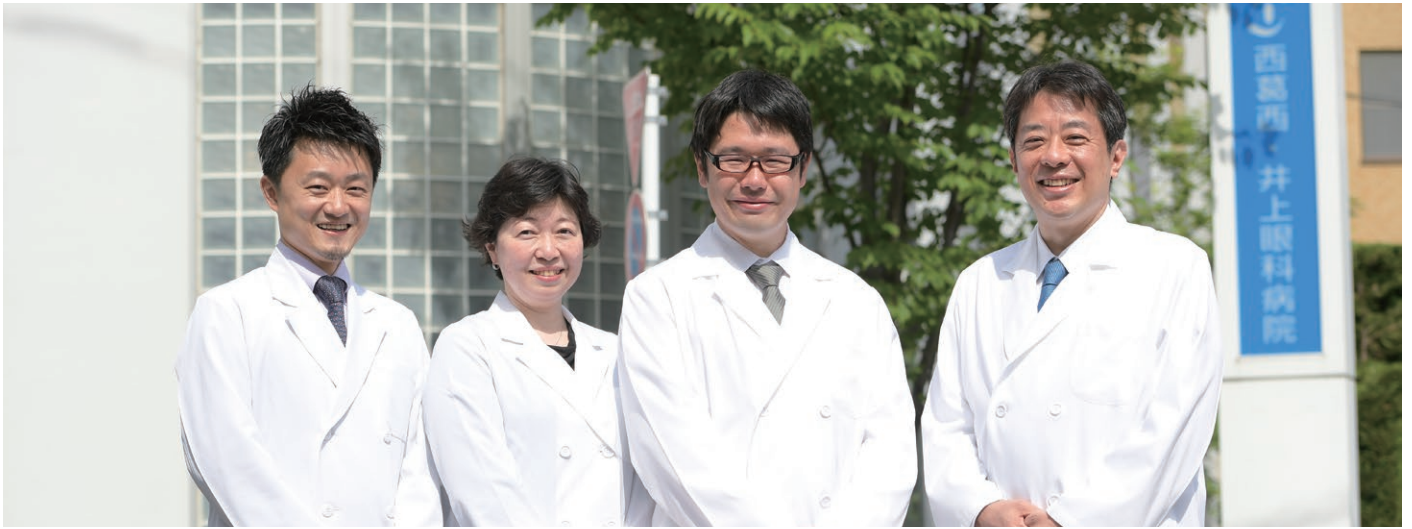
好きな言葉「努力はいつか報われる」

いつも自分に言い聞かせているのは「努力はいつか報われる」という言葉。「やるならば何かを学び取る」と思うのと、「気が進まない」と思うのでは、同じことをしても結果が全く違います。



料理やパン作り、お菓子作りが大好きです。忙しい毎日ですが、良い息抜きになっています。

5月から新体制が始動



写真左から藤本副院長、國松副院長、田中院長、井上理事長



田中新院長は全国トップクラスの網膜硝子体手術件数を誇る西葛西・井上眼科病院で、実績を重ね、その明るい人柄で、専門医の育成にも尽力してきました。

昨年副院長に就任した藤本副院長、緑内障が専門の國松副院長と共に力を合わせ、高度医療を手がける病院として、今後とも地域に貢献していきます。

医療法人社団 済安堂 理事長
井上眼科病院 院長

井上 賢治
Kenji Inoue

〈ご挨拶〉

この度、院長を拝命いたしました田中 宏樹です。西葛西・井上眼科病院は、緊急手術にも対応できる手術・入院施設を完備した眼科専門病院として、地域医療の貢献に努めてまいりました。これまでと変わることなく、開院以来、大切に受け継がれてきた地域とのつながりを、國松副院長、藤本副院長と共に、しっかりと引き継いでいくことこそ、私の使命だと考えております。当院では、近隣の眼科医院・クリニックさまから、数多くのご紹介をいただいております。スピーディに情報連携することで、患者さまにとって最善の医療をお届けしていきます。

西葛西近隣エリアはファミリー層も多く、お子さまからご高齢の方まで患者さまの年齢も症例も多岐にわたります。私の専門でもある網膜硝子体疾患など、さまざまな疾患に対応していくにあたり、検査機器の増設などのハード面だけでなく、医師の採用や育成の強化に力を入れていきます。当院では、年間約4,000件もの手術実績を有し、これは関東でも屈指の症例数となります。この強みを生かして、医師を育成し、更なる技術の向上に力を入れていきたいと考えています。



田中 宏樹
Hiroki Tanaka

西葛西・
井上眼科病院 院長

FOCUS ON!!

入院施設紹介

井上眼科病院の病棟は、ロービジョンの患者さまに配慮した眼科特有の入院施設です。ユニバーサルデザインを取り入れ、患者さまが過ごしやすい工夫を随所に取り入れています。



安全かつ落ち着いた環境でホスピタリティを提供。

カーペット敷きの廊下は、足音が響きにくく、安全に移動できます。夜間の照明は、足元灯を採用することで、患者さまの安眠・安全に配慮しています。[写真は特別室]



月に一度の行事食は、季節感のある盛り付けと味わいにこだわっており、患者さまにご好評いただいています。

もっと、地元の患者さまのお役に立ちたい。
 白内障、緑内障、涙道、
 さまざまな疾患に対応いたします。

北海道、札幌の中心地という場所柄、職場から受診される会社員の方、高齢の方、お子さま、遠方から飛行機で受診される方までいらっしゃいます。その中で最近特に気になるのは、インターネットなどでさまざまな情報に触れ、有益な情報も間違った情報も、巷には溢れているということです。安易に自



正しい情報を伝えたい思いからセミナーを開催しています。

清水 恒輔

Kosuke Shimizu

札幌・井上眼科クリニック 院長

己判断せずに、眼のことで気になることがあれば、お気軽にいらしてください。



「涙」でお困りのことは、ありませんか？

他の病院では治療できないことも多いのが、涙が常に溢れてハンカチが手放せない、いわゆる「涙目」と呼ばれる疾患です。当院では、涙道内視鏡の検査で重症度を判定し、治療法を選択していきます。患者さまの状況により、日帰り手術で低侵襲治療をすることが可能です。「涙を拭かなくても良くなった」と喜びの声を多数いただいています。

■ 受付時間 毎週木曜日14:00~16:00

■ ご予約はお電話で TEL. 011-200-3755

2021年5月に開院2周年を記念して、セミナーを開催



今回で6回目のセミナーでしたが、過去にいただいたアンケートを元に、初の試みとして、井上理事長と清水院長による個別の「医療相談会」を実施しました。



開催報告はこちら▲



いいもの **見** つけた！

先生たちが最近見つけた、身近な“いいもの”をご紹介します！



自宅で過ごす時間が増え、観葉植物を育て始めました。ピカクシダという植物は、樹木にくっついて成長する着生植物で、とてもユニークな育ち方をします。緑を「見」てリラックスし、その成長を「目」にして達成感を日々感じています。



方倉 聖基
Seiki Katakura

井上眼科病院
副院長

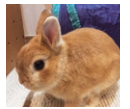


お料理にハマって、家庭菜園を始めました。手をかけて育てたグリーンを「見」て、目をリフレッシュしています。また、「目」の中に入れても痛くないほど可愛い愛兔のために、ベビーキャロットも栽培しています。



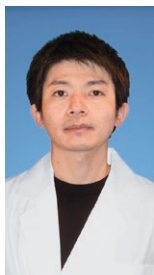
田尻 美香
Mika Tajiri

井上眼科病院
麻酔科医



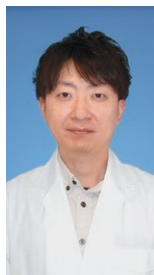
NEWS TOPICS / INFORMATION

お茶の水 西葛西 新たに4人の医師が井上眼科病院グループに入局いたしました。



井上眼科病院
内匠 哲郎
Tetsuro Takumi

鹿児島県出身です。患者さまの生活を大事にして診療いたします。



井上眼科病院
宮谷 祐樹
Yuki Miyatani

出身は京都府、趣味は野球観戦です。患者さまの気持ちに寄り添った診療を心がけています。



西葛西・井上眼科病院
阿部 真代
Mayo Abe

患者さまに安心して治療を受けていただくよう、一人ひとりに丁寧な診療を心がけています。



西葛西・井上眼科病院
石山 惣介
Sosuke Ishiyama

東京大学卒業後、九州の眼科病院に7年在籍。網膜硝子体疾患を軸に、眼科全般に対応します。

グループ 『家庭画報 7月号』 に井上理事長と米倉涼子さんの対談が掲載されました。



大人気医療ドラマ『ドクターX』で天才外科医・大門未知子役を演じる米倉涼子さんが、会ってみたいドクターと対談する不定期連載企画。第3回目に当院グループの井上賢治理事長が“ドクターI”として掲載されました。

グループ 職員への新型コロナウイルスワクチン接種を行いました。

当院グループ職員の新型コロナウイルスワクチン接種を行い、希望した職員全員の2回目の接種が完了いたしました。これによって院内感染を防ぎ、より安全に診療に臨める体制となりました。引き続き患者さまが安心してご来院いただけるよう、感染防止対策を徹底してまいります。

